

研究
主題

教材の道徳的価値を自分のこととして捉え、自己を見つめ考えを深める生徒の育成
—道徳科における体験的な学習と終末の時間の充実を通して—

第3学年道徳科学習指導案

指導月日 令和6年10月16日
所属校名 石巻市立河南西中学校
氏名 菅井 龍成

1 主題名 真の友情とは「B（8）友情、信頼」

教材名「合格通知」（東京書籍 新しい道徳3）

2 主題のねらい

ささいなことから感情の行き違いが生じても、その悩みや葛藤を乗り越えることで心から信頼できる友情を育てようとする道徳的態度を育てる。

3 主題観

本主題は中学校学習指導要領（平成29年告示）特別の教科 道徳の内容「B 主として人との関わりに関すること」、の「友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと」を受けて設定している。

中学生の時期は、心身の成長は目覚ましいが不安定な時期でもある。また、体験や学習の質が高まる中で互いに心を許し合える友達を真剣に求めるようになる。一方、自分の行為が他人や自分自身にどのような結果をもたらすか、主観的なものの見方ゆえに相手のことをおもんばかれないことで感情の行き違いが生じることがある。友達であるからこそ今後どうすべきか悩んだり、葛藤したりするが、共にそれを乗り越えることで生涯にわたり尊敬と信頼に支えられた友情を築くことができることを自覚させ友情を大切にしようとする態度を養わせたい。

4 生徒の実態〔第3学年1組34名〕

本学級の生徒は、どの教科でも抵抗なく意見交流ができ、特に道徳の授業では他人の意見に共感しペアやグループで円滑に話し合うことができている。

事前のアンケートで、「感情の行き違いによって友人関係が崩れた経験はあるか」の問いに対し約7割の生徒が「ある」と答えている。そのうち、「崩れた関係を解消するために何をしたか」の問いに対しては、「自分から謝る」と答えた生徒が約3割、「話し合う」と答えた生徒が約2割、「行動を共にする」と答えた生徒が約1割、「放置する」の回答が約1割だった。友人と感情の行き違いを経験した生徒のうち約6割が、行き違った関係を修復するための行動を起こすと答えていることや、普段の生活、級友との関わりの様子から、本学級の生徒は「友情は大切なものである」ことを認識して集団生活を送っていることがうかがえる。次に「行き違いを解消するためにもっと有効な方法について考えつくか」の問いに、「相手の反応を考える」といった他人の立場と置きかえて考えるという回答があった。さらに「相手の話を聞く」、「話し合う」といった回答も見られたことから、心を許し合える友達を真剣に求め、仲違いしたくないという思いを抱いていることが分かる。一方で「先生がルールを決める」といった他人任せの意見や、「現状維持」といったリスクを避ける考えが見られた。

5 指導観

実態調査の結果から、友人との不和を経験したことの無い生徒が約3割、また、不和が起きたときに「あきらめる」「縁を切る」「何もしない」といった、友人関係の修復に向けて行動しないと考えている生徒が約3割いることが分かった。この結果から、登場人物それぞれの心情を多面的に捉えさせ、それを基に自分の考えを組み立てていく。そして、級友の意見を聞き入れて思考の材料にしながら自分の考えを膨らませていくことが必要であると考え。そうすることで、心から信頼できる真の友情を培おうとする道徳的態度を育てたい。

導入では、主題に関する意識調査の結果を示す。展開前段では、舞と美穂と隆の衝突場面を役割演技させることで、感情の行き違いが生じたときの気持ちについて考えを深めさせる。展開後段では、舞が葛藤場面後に親友に対してどのような行動をとるのかについて考えさせる。終末では、友人と行き違った関係を乗り越えた先にはどのような状態になっているか考える。また、真の友情を築くにはどんなことに留意するか、考えを深めさせる。

6 研究主題との関連

(1) 体験的な学習

道徳的価値を自分のこととして捉え、登場人物の気持ちや立場の理解を一層深め、自己を見つめるための方法として役割演技や動作化を設定している。価値観や物事の捉え方、尺度は人によって大きく異なるものである。また、登場人物の見方を捉えやすくする効果もあることからこの学習を設定した。具体的には道徳的価値に迫らせる場面や価値に関わる場面で役割演技を設定する。登場人物の会話をペアで取り組み、動作化し、追体験をすることで、自分を重ねて考えることができる。余計な情報を削り、気持ちに入り込みやすくするために、セリフのみを抜き出した資料を用意する。

(2) 終末の時間の充実

終末で留意する点は、展開後段で押さえた道徳的価値に対する捉えについて、実践する気持ちを高めることである。この気持ちを生徒自ら向上させるための一助となるのが「説話」や「ことわざ」、「格言」などである。以上の三つで気を付けなければならない点は、価値の押し付けになったり、価値がずれたりすることである。もう一つの留意点は、「説話」、「ことわざ」、「格言」などの活用の仕方である。生徒がすぐ考えられるものを念頭に置きながら、教材の内容に即したものを扱い、その意味を説明し、教材の内容と照らし合わせることで、ねらいに迫り生徒の思考が深められる。以上の点を意識して終末を進める。

7 本時の計画

(1) 本時の指導に当たって

導入では、教材の特性を踏まえ、本時で扱う道徳的価値に焦点化できるよう主題に関する意識調査を示す。展開前段では、舞と美穂と隆の衝突場面を役割演技させることで、登場人物の思いに近付き生徒同士で伝え合い、感情が行き違ったときの怒りや悲しい気持ちを自分と重ね合わせて考えさせる。展開後段では、舞が葛藤場面後に親友に対し、友情を築くためにどのような行動をとるのかについて考えさせることで友達との不和を乗り越え、関係をよりよいものにしていこうとする態度を養う。個人思考から出た意見を共有することで新しいものの見方や考え方を生み出したり考えを深めたりする。

(2) 指導過程（別ページ参照）

(3) 本時の評価

親友との感情の行き違いから生じた怒りと親友を傷付けた後悔の感情とが葛藤している舞の気持ちを考え、伝え合う中で、真の友情を育てていくことの意義について自分の生活と関連させながら考えることができたか。（ワークシート・発言）

(4) 教材名「合格通知」（東京書籍 新しい道徳3）

(5) 教材観

本教材では、受験に合格した舞が合格通知をスマートフォンで写真に撮り、親友へメッセージとして送る。それを親友は嬉しさのあまりSNS上に投稿してしまう。それを見た舞と同じ高校を受験して不合格になった男子同級生は深く傷付き、舞が親友に自慢したものだと思い込んでしまう。信頼していた親友に対する憤りと傷付けてしまった後悔の念に葛藤している舞に焦点を当てることで、真の友情について考えることができる教材である。また、生徒の多くが舞と同様に友達と仲違いする状況に陥る可能性が高いと思われる。悩みや葛藤を克服することで、より一層深い友情の構築につながるものであることに気付かせたい。葛藤する舞に自分を照らし合わせ、自らの交友関係を見つめることを通して、友情は人間にとって人生をかけがえのないものにし、相互の人格を高め合うものであることに気付かせたい。

(6) 準備物

①教師：教科書、タブレット端末、ワークシート、座席表 ②生徒：教科書、ワークシート

(7) 本時の評価

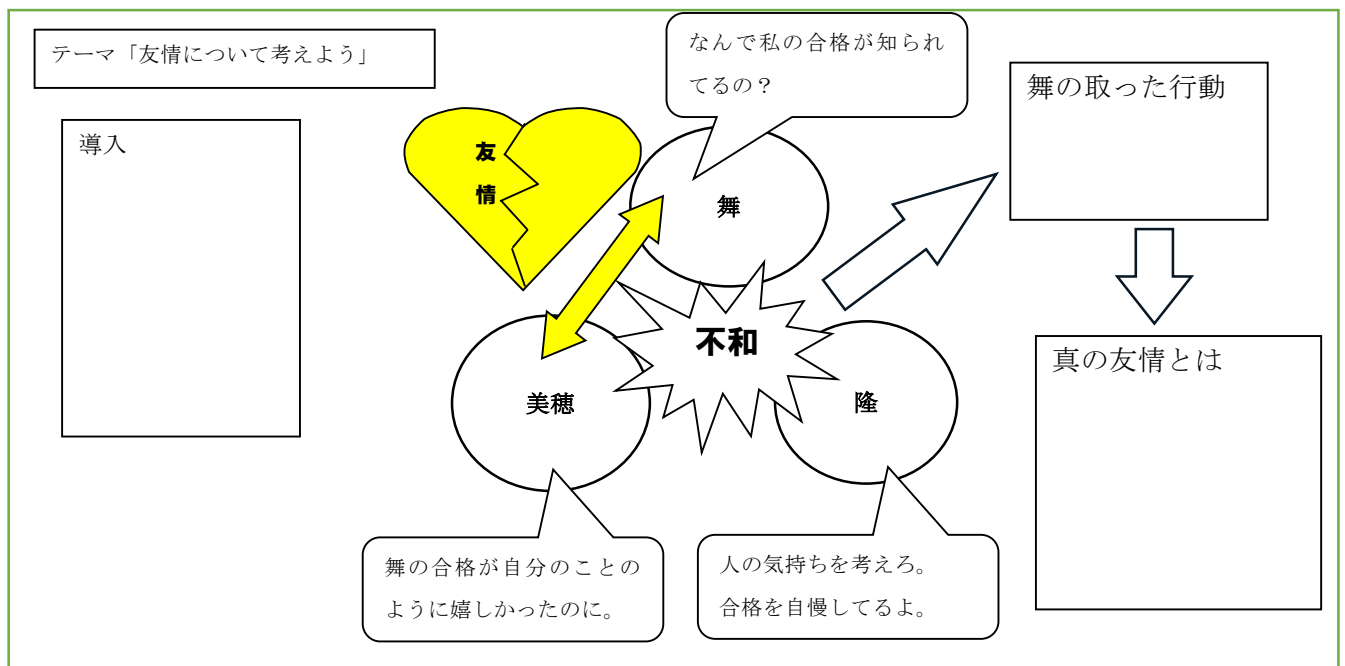
○登場人物の考え方や感じ方の違いについて、自分との関わりで考えようとしていたか。

【ワークシート、発言、観察】

(8) 他の教育活動との関連（別ページ参照）

(9) 教材分析・発問構成表（別ページ参照）

(10) 板書計画

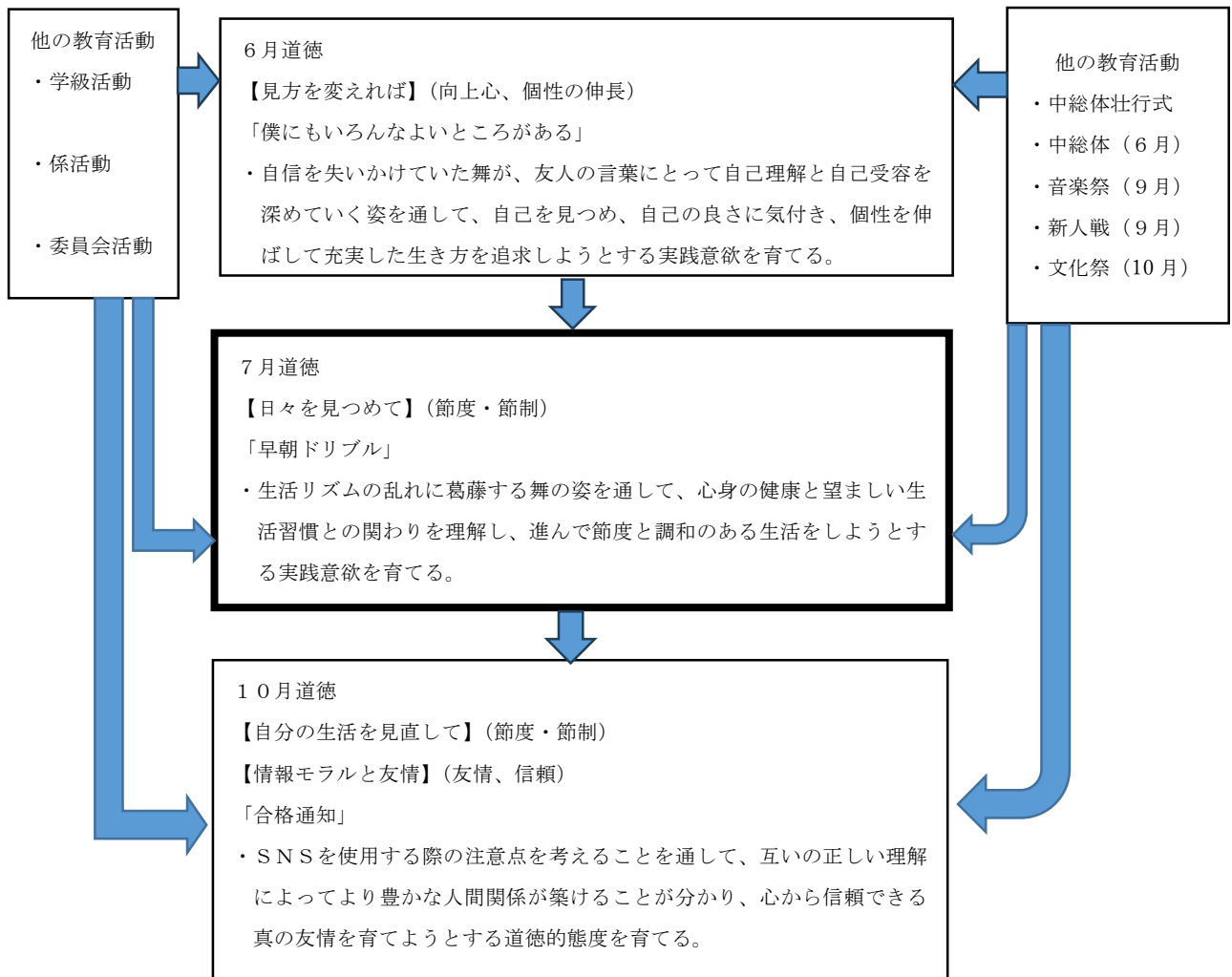


(2) 指導過程

段階	学習活動 ○主な発問（◎中心発問）◆予想される反応	形態	・指導上の留意点 ☆評価
導入 3分	1 教材のテーマに関わる友情に関心を持つ。 ○「あなたは今、どんなことに興味を持っていますか」の問いの回答ランキング（ベスト3）までを紹介する。	一斉	・NHK「中学生・高校生の生活と意識調査2022」の資料を紹介する。 ・生徒に予想させながらテンポよく進める。 ・ベスト1「友達付き合い」の中でも、友情について本時は考えていくように伝え、日常を想起させる。間を置いてから課題を確認する。

	<p>2 課題（テーマ）をつかむ。 ○「友情について考えよう。」</p> <p>3 範読を聞き、舞と美穂と隆のやりとりの様子を捉える。 ○範読を聞き、線を引いたところについてどんなことを感じさせられたか、意見を隣同士で伝え合う。</p>	<p>一斉</p> <p>ペア</p>	<p>・範読の前に、友情について表されていると思われる文章に線を引きながら黙読するように指示する。</p>
展開 前段 1 5 分	<p>4 役割演技を通して登場人物の気持ちを考える。 ○「隆はどんな気持ちで舞に話していたか考えよう」 ○「舞と美穂の言動について演技を行い、どんな気持ちだったのか考えよう」 (隆) ◆自慢したくて投稿したのか。 ◆デリカシーがない。気分が悪くなる。 (舞) ◆勝手に投稿したのが悪い。 ◆個人情報勝手に使わないでほしい。 (美穂) ◆一緒に喜んでいのに何で怒るのか分からない。 ◆一言伝えてから投稿すればよかった。</p>	<p>ペア ↓ 一斉</p>	<p>・演技に入る前に隆の気持ちについて問い、確認させる。 ・演技がうまいかどうかは学習に関係なく、役割演技を通して感じたことを大切にするよう指示する。 ・ペアごと役割演技後に二人の気持ちについて意見交換させる。 ・舞、美穂の気持ちをペア毎に発表させたら、全体で同意見の生徒と関連付けさせる。 ・相手のことを思ってとった行動で思いもしない事態になってしまったときの気持ちを考えさせる。</p>
展開 後段 2 5 分	<p>5 親友との不和をどのように乗り越えるか考える。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <p>◎美穂・隆と行き違いによって関係が悪くなった舞は、この後どんな行動を取ったか考えよう。</p> </div> <p>◆美穂の気持ちを受け止めないでごめんとあやまる。 ◆自分からあやまって、お互いの気持ちを話す。 ◆悪いことをしたと思ってないからあやまらない。</p> <p>6 「友達と固い友情を築く」には、どのようなことが必要なのか考える。 ○「友達と揺るがない友情を築くためには、どのようなことが必要だろうか」 ◆相手のことを理解する。 ◆相手の嫌なところを本音で言い合う。 ◆一度思い切りけんかをする。</p>	<p>ペア ↓ 一斉</p> <p>個人 ↓ 一斉</p>	<p>・ペアを組んだ相手の意見を聞き自分の考えにはなかった意見を知ること、多様な考えに気付かせる。 ・全体で共通理解を図る際、同意見の生徒は挙手をさせ、似たような意見は数名に発言させて板書で整理し関連付ける。 ・肯定的な意見しか出ないときは「もし○○なら」と仮定した逆説的な問い返しをして生徒の考えを深めさせる。 ☆登場人物の考え方や感じ方の違いについて、自分との関わりで考えようとしていたか。 【ワークシート、発言、観察】</p> <p>・多様な考えを出すには、友達と感情の行き違いが起きることを回避する考えも受け入れる。 ・肯定的な意見しか出ないときは「もし○○なら」と仮定した逆説的な問い返しをして生徒の考えを深めさせる。</p>
終末 7 分	<p>7 授業で考えたことや気付いたことを深める。 ○ワークシートに本時の振り返りを記入する。 ◆（教師の説話・ことわざを聞く）</p>	<p>一斉</p> <p>個人</p>	<p>・友情、信頼について考えを深めさせるために、書く時間を確保する。 ・自己の考えの深まりや新しい捉え方に気付かせる。</p>

(8) 他の教育活動との関連



(9) 教材分析・発問構成表

